

第二回 長期留学 報告書

国際農業開発学科四年 三上 沙織

メキシコでの生活や言葉にも段々と慣れもう少しで半年が過ぎようとしています。時間が過ぎるのは本当に早いと、こちらに来てから今までよりも強く感じております。専攻している熱帯果樹に関する勉強も、段々とフィールド調査や実験で内容を深められるようになり、忙しくしている毎日です。

長期休業では、日墨協会の土屋さんをはじめ多くの方々にお世話になり、インターンをさせてもらいました。内容としては、日本 PR イベントのお手伝いを主にやらせていただきました。メキシコはとても日本に対して良い印象を抱いている方が多い国で、とても親日的な国だと感じています。それはイベントだけで感じたのではなく、普段大学構内で生活していても日頃から思うことです。日本人なの、と気軽に話しかけてくれる暖かい方が多く、自分も生活していて、とても過ごしやすいつ感じるばかりです。

九月には農大からの短期留学生の方々も数名こちらに来られたり、他大学からも長期留学生在が数名来たりと日本人の方々と触れ合う機会が多くありました。その中で、自分は一番長くいるので案内やアドバイス、言葉の面でサポートさせてもらうことも度々あったのですが、学んできたことを元に話しが出来、自分が想像していたよりも目に見えないところでも少しずつ成長しているんだと実感しました。普段の生活の中でも、ふと立ち止まって振り返ってみると、前よりもスペイン語で話が理解できるようになったな、農作業の中では、体力ついたな、上手い道具の使い方や体の使い方も前よりも随分楽にこなせるようになったな、と些細なことではありますが自分の成長を感じています。本当に毎日が勉強です。その日が終わるたびに今日も充実した一日だったなと感じます。こうして勉強したいことをさせてもらい過ごせている環境に感謝して、今後も残りの四カ月過ごしていければと思います。

日本でも大々的に報道され多くの方々をご存知の通り、メキシコでは九月に数回大きな地震が起きました。思わず目をそらしたくなるような状況が目の前に広がる光景は、想像を超えるものでした。どうしてメキシコだけがこんなに被害を被らなければいけないのだろうと、とても言葉では表しきれないような気持ちだったのを覚えています。大学でも建物の一部損壊や、電気やガス、インターネット等のライフラインが一時影響を受けるなどありましたが、幸いにもけが人や命の危険にあった方などはいなく、無事に生活を送ることが出来ています。直後は大学でもしばらくの間、授業は休講になり救助活動や救援物資の支援活動などに時間を多く当られ私も参加させてもらいましたが、未だにすべての被災地が完全に復旧されたわけではありません。地震は落ち着いたものの、残された爪痕は大きく、まだまだ復興の真っ只中です。私も引き続き、自分のいる場所から出来ることを、メキシコのた

めにしていけたらと思います。

帰国まで半分を切り、時間が経つのは本当に早いものだと感じる毎日です。一分一秒しっかりと大切に過ごしていきたいです。また、今ここに居れるのは、日頃から支ええるメキシコの方々だけではなく家族や友人、学校の方々の協力があるからだということという感謝の気持ちを常に持って生活していきたいです。残り半分も、今一度気を引き締めて頑張ります。